

新規事業採択時評価結果(平成19年度新規事業化箇所)

事業の概要

事業名	府中所沢線(国分寺3・2・8)		事業区分	街路	事業主体	東京都
起終点	自: 東京都府中市武蔵台三丁目 至: 東京都国分寺市東戸倉二丁目		延長	約2.5km		
事業概要 府中所沢線は、府中市を起点とし、国分寺市、小平市及び東村山市を経由し、埼玉県境に至る延長約13.6kmの都市計画道路で、多摩地域の骨格を形成する南北方向の主要な幹線道路である。このうち、府中市武蔵台三丁目(多喜窪通り)から国分寺市東戸倉二丁目(五日市街道)までの延長約2.5kmの区間で、往復4車線の道路を整備するものである。						
事業の目的、必要性 現在、多摩地域の主要な幹線道路は東西方向に比べて南北方向の整備が遅れているため、体系的な道路ネットワークが形成されず、交通渋滞が慢性化している。このため、本路線を整備することにより、交通渋滞の緩和や居住環境の改善と都市空間の確保、防災機能の向上などを図る。						
全体事業費	540億円		計画交通量	18,200～30,700台/日		
事業概要図 						

関係する地方公共団体等の意見
 国分寺市の「都市マスタープラン」では交通の利便性や都市生活の安全性、快適性を高める「主要骨格軸」、および緑豊かな都市空間をつくりだし、都市生活の安全性を高める「水と緑の軸」としている。また、「国分寺市道路網整備計画(前編)」でも優先的に整備する必要がある道路としている。このように、市では、この道路を今後のまちづくりに重要な道路として位置づけ、積極的な取り組みを行っている。

事業採択の前提条件
 ・ 便益が費用を上回っている。
 ・ 既に都市計画決定されており、円滑な事業執行の環境が整っている。

事業評価結果

担当課: 関東地方整備局都市整備課
 担当課長名: 新屋千樹

費用対便益	B/C	2.0	総費用 420億円 事業費: 405億円 維持管理費: 15億円	総便益 828億円 走行時間短縮便益: 841億円 走行費用減少便益: -17億円 交通事故減少便益: 4.0億円	基準年 平成18年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C= (交通量 %)	B/C= (交通量 %)	B/C= (交通量 %)	
		事業費変動	B/C= (交通量 %)	B/C= (交通量 %)	B/C= (交通量 %)	
		事業期間変動	B/C= (交通量 %)	B/C= (交通量 %)	B/C= (交通量 %)	
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠		
		渋滞対策		【渋滞損失時間の改善】 【1kmあたり(台kmあたり)渋滞損失時間】 【渋滞度曲線】 【その他の特徴】 ボトルネック踏切である国分寺第3号踏切(西武国分寺線×府中街道)での渋滞解消に寄与する。		
		事故対策	-	【死傷事故率】 (死傷事故率比(県内平均比)) (事故率曲線における位置:) 【その他の特徴】		
		歩行空間		往復4車線の車道部16mの両側に、緑豊かな植樹帯と快適な歩行者空間を有する10mずつの環境施設帯を設けた36mを標準とし、沿道環境に配慮した広幅員の道路として整備する。		
	社会全体への影響	住民生活		生活道路に進入する通過交通が本線へ転換することにより住民生活の安全性・快適性が高まる。		
		地域経済		道路の新設に伴い、沿道の高度化利用が期待される。		
		災害		本路線の整備により、消防車等の緊急車両のアクセスや避難路としての機能が確保できる。また、新たなオープンスペースが確保され、延焼遮断帯としての効果が発揮される。		
		環境		慢性的な交通渋滞の解消により、自動車排気ガスの削減が図られる。		
	地域社会		国分寺市、小平市方面から「東京ER・府中」(救急医療施設)へのアクセスが向上する。			
事業実施環境			東京都の道路整備プログラム「第三次事業化計画」における優先整備路線に位置づけ。			

採択の理由

費用便益比が2.0と、便益が費用を上回っているとともに、平成18年8月に都市計画変更手続きが完了していることから、事業採択の前提条件が確認できる。
 また、本路線は多摩地域の骨格を形成する南北方向の主要な幹線道路であり、その整備により、並行する府中街道の交通渋滞が緩和されるとともに、住宅地等に流入する通過交通を排除されるなど、周辺地域の安全性や快適性が向上すると判断できる。
 以上より、本事業を採択する。